

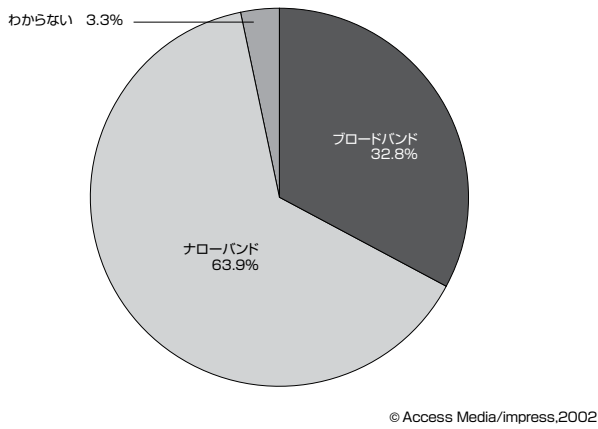
## 第2章 パソコン利用者

### 通信環境

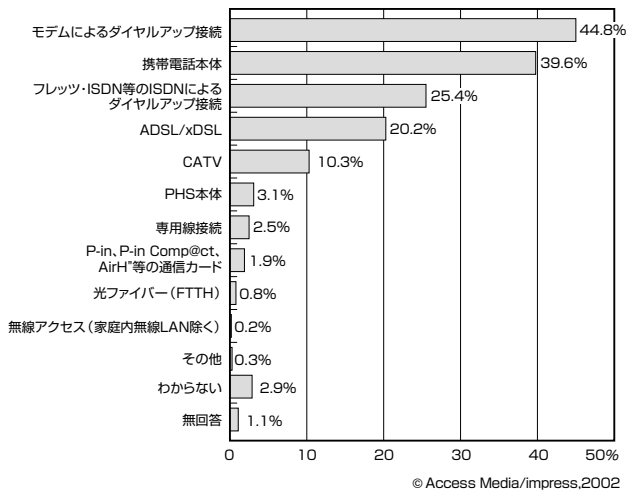
### 3割がブロードバンド利用者

#### ブロードバンド & ナローバンド

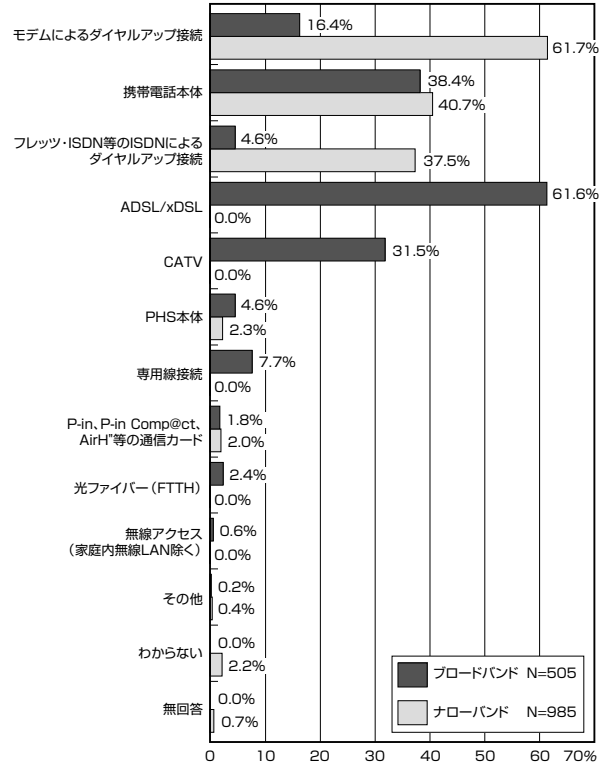
資料1-2-1 ブロードバンド/ナローバンド構成比 N=1,541



資料1-2-2 現在利用している全ての接続方法 N=1,541



資料1-2-3 ブロードバンド/ナローバンド別 全ての接続方法



(注) 資料1-2-1は、個人世帯から主に利用している接続方法1つについて、ブロードバンドかナローバンドかを聞き、構成比を出したものである。今回の分析軸にはこの構成比を採用している。また資料1-2-5は、資料1-2-4の接続方法の詳細からブロードバンド/ナローバンドの構成比を求めたもので、ナローバンドの詳細が「わからない」「無回答」があるため、資料1-2-1の構成比とは一致しない。

## 解説

本調査はインターネット利用者の市場規模を把握すると同時にエントリー層からパワーユーザーまでの利用実態を一元的に分析することを目的としている。そのため、できる限り利用実態を正確に捉えるよう、あえて全国規模の電話による普及率調査と郵送調査の組み合わせという手法を用いている(調査概要38ページ参照)。日本でもブロードバンドが本格的な普及を見せ始めた今年は、主にパソコンで接続している人の利用実態をブロー

ドバンドとナローバンド別に分析することに主眼を置いた。さらに例年同様の時系列分析に加え、今年ならではの新項目も追加して市場の成長を考察している。

### ■通信環境

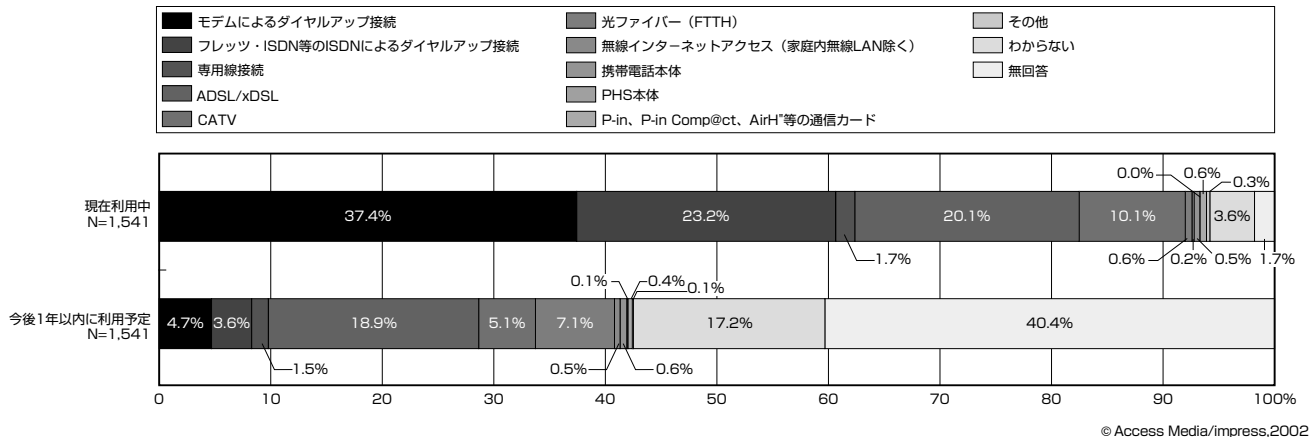
ここでのブロードバンドとはADSL/xDSL、CATV、光ファイバー (FTTH)、無線、専用線接続、FOMA (携帯電話) によるインターネット接続を指す。また、ナローバンドとはISDNを含む電話回線によるダイヤルアップ接続および携帯電話

/PHSによる接続、P-in comp@ct、P-in Master、AirH"などデータカードを利用したデータ通信を指す。この主な接続方法のブロードバンド/ナローバンド別を本章の分析の中心軸とする。

資料1-2-1は回答者個人の世帯から主に利用している接続方法1つがブロードバンドかナローバンドかを聞いたもので、およそ1対2となっており、ブロードバンドが全体の3分の1まで浸透したことがわかる。資料1-2-2はパソコン以外のインター

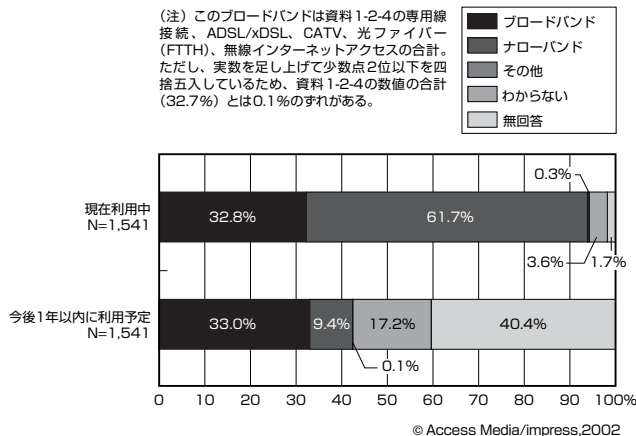
ブロードバンド  
& ナローバンド

資料1-2-4 主な接続方法（現在/今後1年以内）

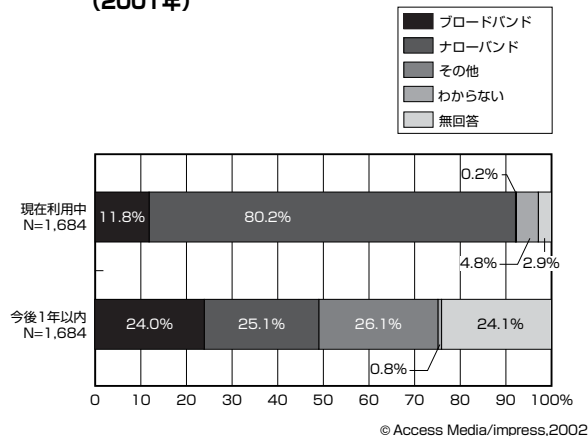


資料1-2-5 主な接続方法にみるブロードバンドとナローバンドの比率

(注) このブロードバンドは資料1-2-4の専用線接続、ADSL/xDSL、CATV、光ファイバー (FTTH)、無線インターネットアクセスの合計。ただし、実数を足上げて少数2位以下を四捨五入しているため、資料1-2-4の数値の合計 (32.7%) とは0.1%のずれがある。



資料1-2-6 主な接続方法にみるブロードバンドとナローバンドの比率 (2001年)



解説

ネット接続機器の利用も考慮し、現在利用している全ての接続方法を複数回答で聞いたものである。複数利用でみれば、未だブロードバンド対ナローバンドは34.0%：114.9%である。

ブロードバンド/ナローバンドを軸に接続方法の複数回答状況をみたのが資料1-2-3である。主な接続方法がブロードバンドの利用者であっても携帯電話等のナローバンドを併用していることがよくわかる。ブロードバンド利用者のナローバンド併用

率は高く、その逆はほとんどみられないことを本章では留意されたい。

ADSL/xDSL接続サービスは、昨年後半からの各社のサービス向上や大幅な料金値下げ、またコンテンツやインターネット電話などと組み合わせたパッケージ化などが個人利用者に導入しやすい環境を与えた。そのため昨年にはわずか0.8%にとどまっていた「ADSL/xDSL」は1年間で20.1%にまで急伸した(資料1-2-4)。これは接続方法の大変革とってよいだ

ろう。一方、ダイヤルアップでは「フレッツ・ISDN等のISDNによるダイヤルアップ接続」も昨年の11.4%から23.2%と倍増している。しかし、今後1年以内の利用意向をみると「フレッツ・ISDN」を含むダイヤルアップ接続は頭打ちで、「ADSL/xDSL」(18.9%)と「光ファイバー (FTTH)」(7.1%)に注目が集まっている。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)

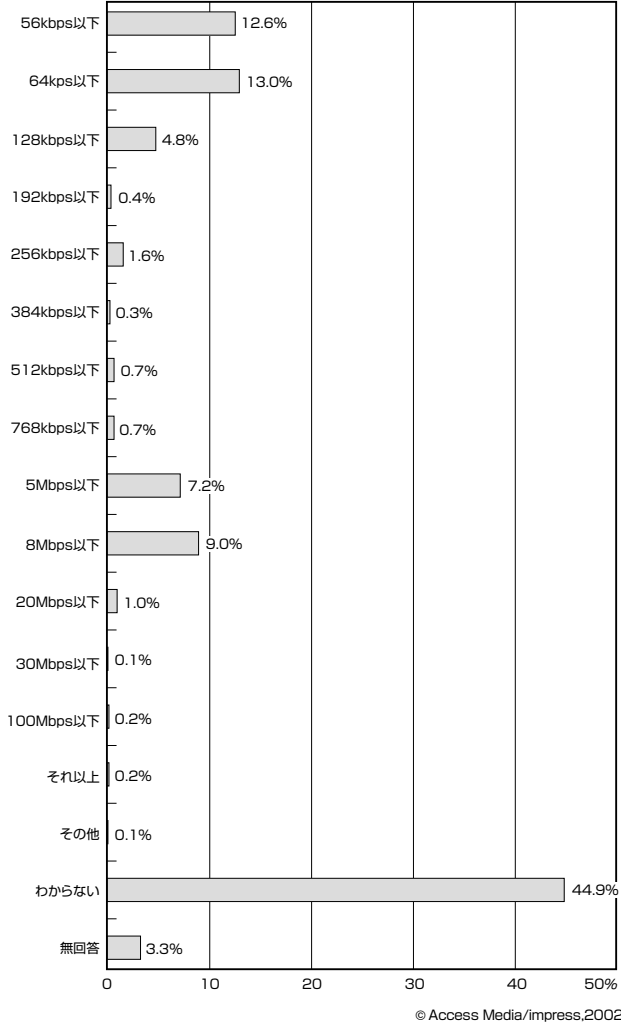
## 第2章 パソコン利用者

### 通信環境

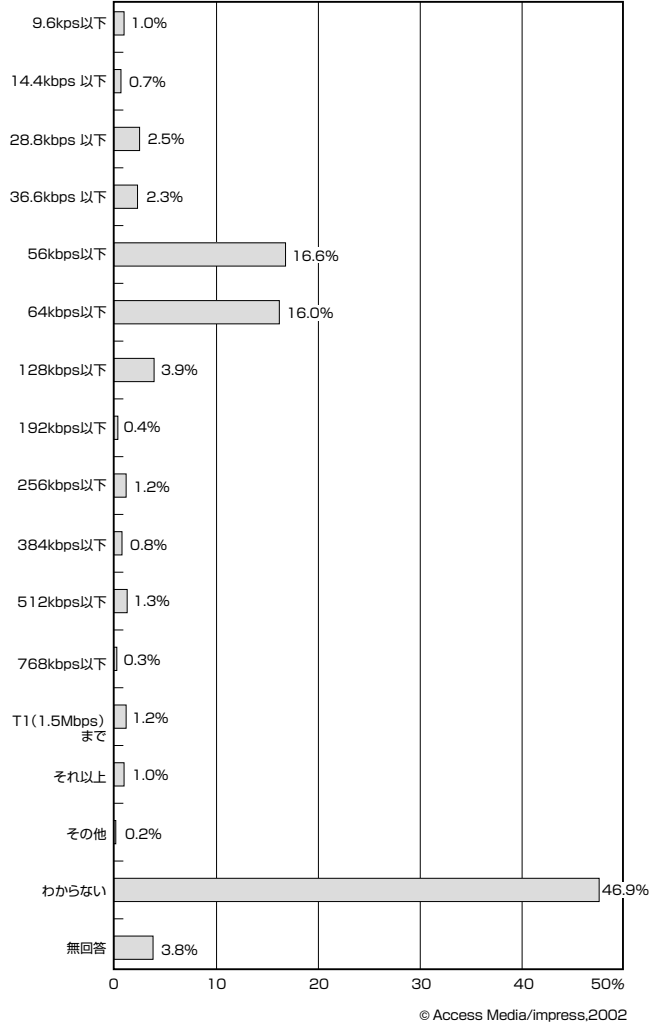
### 64kbps以下と5～8Mbpsに二極分化



資料1-2-7 最大通信速度 N=1,541



資料1-2-8 最大通信速度 (2001年) N=1,684



### 解説

個人利用者の現在の最大通信速度を昨年と比較したグラフが資料1-2-7と資料1-2-8である。通信速度は年々速くなるため選択肢が異なるが、昨年と比較すると主に「56kbps以下」「64kbps以下」が中心だったのに対し、今年は「56kbps以下」「64kbps以下」と「5Mbps」「8Mbps」の両極にピークがある。

前者は主にパソコンに実装されているモデムスピードによるもので、個人利用者が最も手軽にインターネットに接続す

る方法の1つだが、後者は明らかにブロードバンド接続者の最大通信速度で、昨年と大きく異なる特色といえる。

また、速度に関しては「わからない」と「無回答」を合わせると半数近くにのぼり、2001年の50.7%とこの2年間は同傾向である。

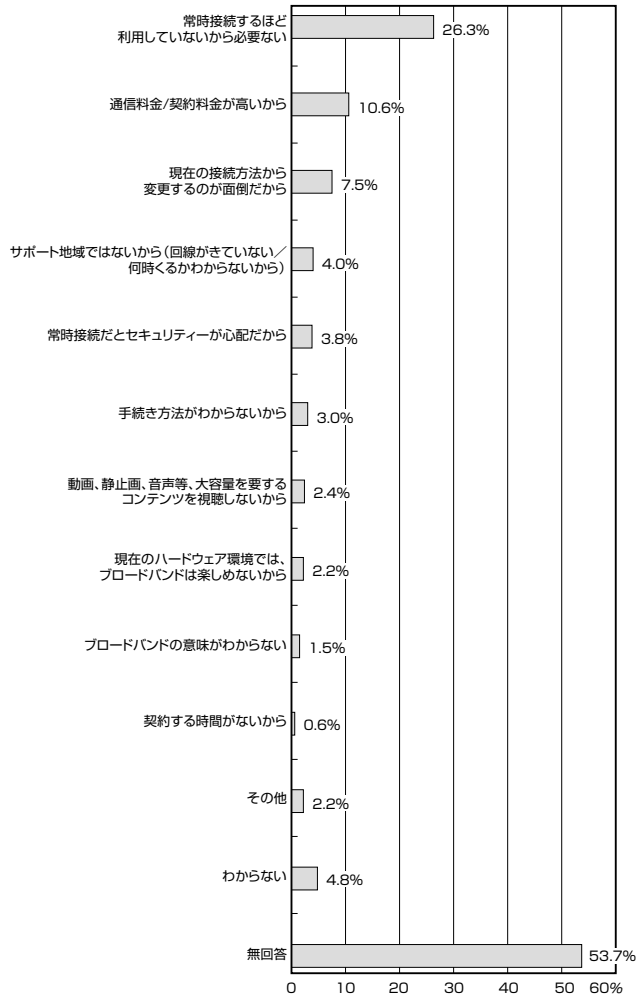
性別年齢別でみると、特に女性や60代以上でその傾向が強く、インターネット利用者の増加とともに初心者が流入してくる中で通信速度のようなスペックの認

識が落ちてきていることや通信速度そのものが利用の足かせとなっていた時代が終わり、通信速度認識が問題とされなくなりつつあることの象徴といってい

よう。主なインターネット接続方法がブロードバンド非利用者(＝ナローバンド利用者)である回答者にブロードバンド接続の非利用理由を聞いたのが資料1-2-9である。この回答者は資料1-2-3(46ページ)でみたように、ナローバンドの複数接続

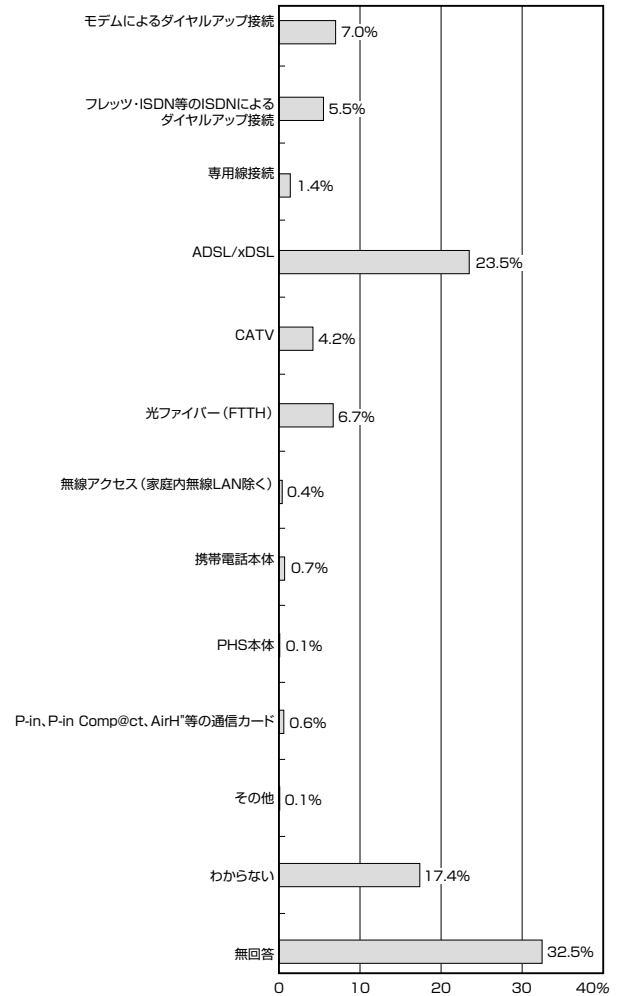
## ブロードバンド & ナローバンド

資料1-2-9 ブロードバンド非利用理由 N=985



© Access Media/impress,2002

資料1-2-10 ナローバンド利用者の今後1年以内の接続予定 N=985



© Access Media/impress,2002

## 解説

の利用はあるにせよ、ブロードバンド接続との併用は基本的でない。

非利用理由には「無回答」が53.7%と多く、特に目立った理由がない回答者が半数を超える。具体的な理由の中では「常時接続するほど利用していないから」が最も高くなっている。

年代別でみると、60代以上で「常時接続するほど利用していないから」が高く、彼らがインターネット利用に関してはまだ日常化していないことを示している。

また、念のため選択肢に入れた「ブロードバンドの意味がわからない」という回答は1.5%と少なく、ブロードバンドという言葉の意味は少なくともインターネット利用者においてはほぼ浸透したとみてよい。

同様に、このナローバンド利用者には今後1年以内の意向も聞いている(資料1-2-10)。

全体に「わからない」や「無回答」も多くみられるが、「ADSL/xDSL」をはじめ

めとするブロードバンドへの意向は複数回答で36.1%みられる。このことから、少なくとも現在のナローバンド利用者から今後ブロードバンドへシフトする利用者が年間3割程度見込まれることが推測できる。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)